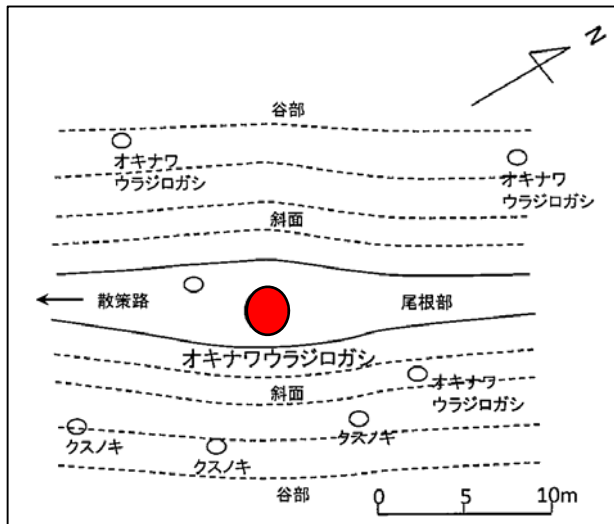


伊部岳のオオウラジロガシ



認定番号 86

樹種名	オキナワウラジロガシ	科名	ブナ科	方言名	カシギ	学名	Quercus miyagii Koidz.					
形状・寸法	樹高 18.0 m	胸高周囲 6.4 m	根本周囲 8.5 m	樹幹占有面積 500.0 m ²								
	枝下高 1.8 m	枝張 東 16.0 m	西 12.5 m	南 12.0 m	北 10.0 m	最大樹冠幅 28.5 m						
通称	伊部岳のオオウラジロガシ			樹齢	300年以上(推定)							
所在地	国頭村字安田			所有者	1 国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明							
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 (山林)			状況	1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他							
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 その他 7 沖縄の名木百選以外なし			気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()				地点: 奥 年度: 2016年 (気象庁HP)	平均気温(°C)	14.7	14.1	16.0	20.7	23	26
土地傾斜	1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			平均気温(°C)	27.4	27.1	26	25.2	20.4	17.7		
基岩・母材	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪地 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			潮風の影響	1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)							
	1 砂壤土: 大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土: 砂と粘土が半々 3 埴壤土: 大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土: ほとんど砂を感じない			日照条件	1 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良							
根元及び周囲の植生	1 密生 2 疎 3 なし			周辺樹木の影響	1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))							
	1 密生 2 疎 3 なし			周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし							

管理状況	1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ m 材質 柵内面積 m ²) 設置年
	2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他
過去の治療歴と内容	無し
故事来歴	1 無し 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無し 5 いわれの内容 首里城築城時代の献木にまつわる「国頭サバクイ」の歌にある築城材として利用された木の生き残りとの言い伝えがある。
視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)
特記事項	1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類 マメヅタ) 3 見学・参観者 a 有 b 無し 4 その他 観光スポット

地上部の衰退度判定（認定番号86）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保持している	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 0.18

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8～1.6未満 やや不良	1.6～2.4未満 不良	2.4～3.2未満 著しく不良

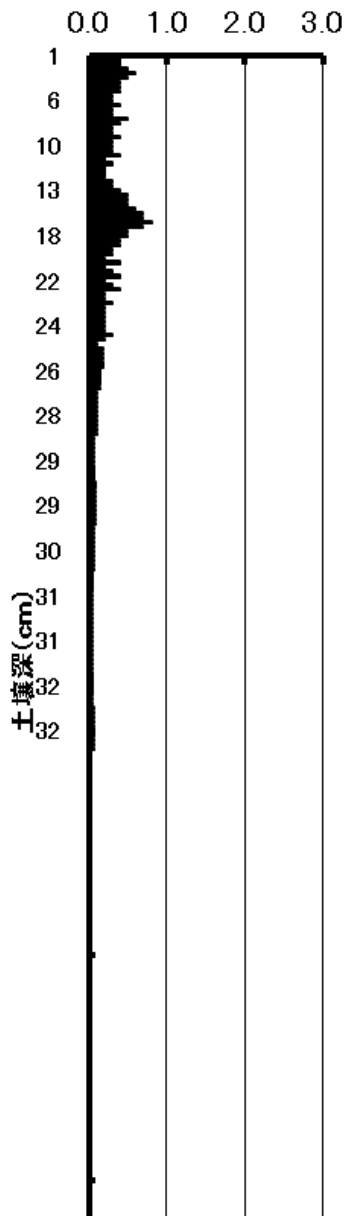
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定				
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険	
通行者・建物等との位置関係	○				
根返り	○				
幹折れ	○				
大枝折れ	○				
中・小枝落下		○			
幹の傾斜の増大	○				
その他()					

土壤調査結果

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	10YR6/6	0-5	塊状	埴壤土	4.9	2.3
II	10YR5/5	5-18	塊状	埴壤土		
III	10YR5/6	18-24	塊状	埴壤土		
IV	7.5YR6/5	24-	カベ状	埴壤土		

土壤貫入量結果



伊部岳のオオウラジロガシ

部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> ・弱乾性黄色土である。 ・表層の流亡が著しく、L,F 層を欠き、A層も薄い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・編柵を等高線上に設置を検討する。これにより土壌の流亡が抑制されると思われる。
根	<ul style="list-style-type: none"> ・西側、南側の歩道の露出根の上部が踏みつけにより損傷が見られる。 ・北面地際に縦 70cm、底辺 35cm の三角形の開口部を持つ空洞があり、内部は腐朽している。 ・南面の地上高 40cm に縦 60cm、横 20cm の開口空洞が見られる。 ・上記の露出根の損傷は見学者等の移動、停留によるものと推察される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木道の設置等、踏圧防止策が必要と考える。
幹	<ul style="list-style-type: none"> ・北西面の高さ 60cm に縦 70cm、横 20cm の開口空洞が見られる。 ・幹内部は高さ約 210cm まで空洞となり、根、幹の開口部とつながる。 ・空洞内部は比較的乾燥しており、腐朽の進行は緩慢と思われる。 ・樹皮の活力が若干低下しており、局所的に損傷が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な観察を検討する。
枝	<ul style="list-style-type: none"> ・大枝に胴吹き状に多数の新枝が発生しており、その一部に枯死が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な観察を検討する。
葉	<ul style="list-style-type: none"> ・葉色、葉量、大きさとも異常は認められない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・幹は大枝の分岐部までは中は空洞となっているが、根張が安定しているので、倒伏の危険は低いと考える。 ・流亡した土壌補てんのために来訪者による土壌の持ち込み散布が行われているが、南根腐病等土壌病害の感染防止のため、禁止すべきと考える。 	

